

農場における栽培の様子

(株の販売についての御連絡事項)

はじめに

当農場では開花したカトレアを切り花にて販売しています。
お客様のご希望があれば、株の販売も致します。以下、栽培の様子を書き留めましたので、ご購入の前にはご一読ください。
思いつきで書いておりますので、作業の順番が前後している場合もありますので、ご了承ください。

園主 山野井 喜仁

株について

株と言っても、様々な状態の物があります。
当農場は主に開花後、3年毎に株分け、鉢替え等により、株の維持を行っております。
株分け翌年も作落ちを限りなく最小限にとどめ開花させるために、また、株分けを3年毎にするためにも、株分けは3バルブで1株を基本的な考えとしてハサミを入れています。
場合によっては2バルブ、4バルブといった株も出来てしまいますが、リードバルブが無い物は基本的に廃棄しており、特別増殖を目的とした場合のみ、バックバルブも植えています。さすがに本職といえども、リードバルブが付いた植え替えであれば、翌年も販売できるサイズと量の開花が望めますが、バックバルブの株では1～2年間は満足な品質の開花が望めません。

その為に、温室の中は品種ごと栽培ベンチ単位ではありますが、植え替え1年目の株（約3～4バルブ）から3年目の株（7バルブ以上）まで様々です。

鉢サイズについて

7号黒色プラ鉢（内寸16cm 高さ18cm）がほぼすべてです。

用土について

2015年1月現在、ニュージーランド産のバーク（松の木の皮）を2種類のサイズをブレンドして使用しています。ブレンドの比率については、まだまだ勉強中なのでころころ変わっています。（灌水の頻度参照）

肥料について

植え替え時に、コーティング肥料（ロング等）を少量入れ、あとはすべて液肥にて管理しています。基本は薄めに、ほぼ毎回灌水の度に混入しています。

灌水の頻度

水かけは週1回、火曜日が原則です。

植え込み資材は、週1回の水かけができるように、ブレンドしますので、可能なのだと思います。1週間以内に乾くようなブレンドです。

雨天時・曇天時・降雪時等はさすがに延期しますが、午前中に終わらせられるよう、6名が朝から掛けます。

基本は暖かい晴れた日の午前中が良いと思います。

開花時期について

1年間を通した開花販売を行っておりますので、ほぼ100%と言っても良いくらい人工的な開花調節を行っております。カトレアは日照時間に敏感でもあり、当園では電照栽培やシェード栽培により日照時間の調節を行い開花時期を調節しています。そのため、お買い求めいただいた株が、翌年も同じ時期に開花するとは限りません。

農場の設備割合 電照設備・・・約98%

シェード設備・・・約43%

(2015年現在)

株分けについて

株分け時には最大限にウイルスの伝染を防ぐための努力をしています。

器具消毒は第三リン酸ソーダを過飽和状態の溶液にて使用しています。

株分けはハサミを使いますが、1株ごとに使い終わったハサミはすぐに消毒槽に入れ、最低でも1時間以上、柄の部分まで完全に溶液に沈めます。

当農場で株分けをするスタッフは4名です。いずれも身内であり徹底して農場の事を真っ先に考えられる人選に限っています。そのうちの1名がその日の株分けを行います。

そのスタッフが1時間に分けられる鉢数は多くて50株位ですが、常時ハサミは200丁以上消毒槽に入れてあり、順に1丁毎に使用されます。

同様に植木鉢、支柱、作業台、植え替え器具等もすべて、出来る限りの予防策は行っているつもりです。

病害虫の予防について

カトレア栽培において、私の経験上、植え替え直後の株に、葉の落ちる病気が数株出て殺菌剤を部分的に2度だけ散布した記憶はありますが、それ以外で株が病気になって薬剤を農場全体に散布したことはありません。

害虫については主に、カイガラムシ・スリップス類がカトレアにはよく発生します。

カイガラムシ対策・・・おおまかに春と晩秋(保温の内張りを開始する直前)に、温室全体に薬剤散布します。1度散布した後、2週間ほど空けて再度散布し、徹底的に駆除します。

最近では卵の孵化を妨げる薬品も出ていますので、混合して使用しています。

スリップス対策・・・当農場では特に夏に多く発生します。早めに温室を密閉したうえでクーラーをかけ、外気を入れないような栽培方法に切り替え、防護策をとりますが、それでも中に入ってしまった害虫は防げませんので、薬剤散布に頼ります。

いずれも、温室内という密室状態のような環境においての薬剤散布は、散布する人や、散布後に作業する人達にも、大きな薬害があると感じていますので、常に極力安全な方法を思案しています。

現在は、温室単位で薬剤散布を行い、散布した温室には夏冬問わず3日以上入らなくても良いような防除計画にて散布しています。幸いなことに当農場は4ブロックに分かれているうえに、連棟温室内も100坪単位で仕切りができますので、防除した直後、温室内で作業をしなくても3日以上は離れた違う温室で、パートさんを含めた全員が安全に作業できるような配慮をしています。防除日数と手間はかかりますが、皆の健康を最優先させる事が経営者の当然の考え方です。

また、散布する人も安全のように、20年ほど前より殺虫剤の防除はすべて無人防除機を使用し、機械・薬剤のセッティングの後はスイッチを入れるだけで、人間は温室外に退避できるようなシステムにしています。

温室内は、従業員を含め子供達や家族がほぼ1日生活するような環境ですので、とにかく安全であり清潔であることが、より良い花を咲かせるための基本と思います。

温室内環境について

正直、いい加減です。

「当農場では」という前提のうえで書かせていただきます。

また細々としたことは良い塩梅で管理していますので、鵜呑みにしないでください。

おおまかに暑い時期と寒い時期にしています。真似しても責任は取りません・・・

寒い時期の温室

基本・外部被覆(ガラス等) + 保温のための内部被覆の3～4層

昼間の晴天時は外部被覆のみにし、遮光は無し

夜間は内部2重被覆を閉め保温

暖房温度 昼間 原則暖房OFF (雨天時・降雪時は13℃設定)

夜間 17℃設定

室温 昼間 23℃ 天窓自動開閉

側窓は閉め切り

暑い時期の温室

基本・外部被覆のみ、遮光は寒冷紗により50%カット

天窓・側窓出入り口等、昼夜問わず、23℃設定なので自動で開閉するところは、ほぼ1日中全開のまま、雨天時だけ天窓閉 室温は最高で42℃を超える時もある。

開花場所・クーラーにより日中23℃、夜間18℃くらいに設定

温室内湿度（除湿機）

花が無い温室は、除湿機OFF 花がある温室は75%以下の自動運転

その他管理

鉢はすべて地面より60cm以上高くしたベンチ上で栽培されています。当農場では、地面は病気の巣窟と考えております。廃棄する物以外、一切地面には直に置きません。また、先に述べました株分けスタッフ以外、刃物、ハサミ類で植物を切る作業は、一切行っておりません。誘引の紐切り用にハサミは全員が所持しておりますが、紐以外は一切切りません。従業員すべてが1日の作業が終了後必ずハサミは消毒槽に入れてあります。

出荷の際は花を切りますが、これも株分けスタッフの4名のみで行い、使用する刃物も消毒したものを、茎1本毎に刃物を替えながらの作業を行っております。1日の花を切る量が2000もの時もありますが、すべて刃物は1本毎に変え、植え替えのハサミ同様、長時間の消毒液の過飽和液に水没させ、消毒したものを使用します。

以上、読んでみるとお分かりの通り、ウイルス対策に神経質なまで対策しています。もちろんウイルスフリーの苗を導入しておりますが、やはり完璧ではありません。また、ウイルス保有株でも栽培に影響がない場合もあります。それぞれ多かれ少なかれ保有しているのかもしれないです。ですから、ウイルスがあるかもしれないという前提で管理をしていますので、うつさないためにも神経質に刃物を交換・消毒しているのです。それでも、環境の変化や体力不足で、突然発病してしまう場合もあります。苗から育てていて、8年目ぐらいにやっと花が咲くカトレアです。せっかく花が咲いたのに、管理する人間の不注意でその命を短くしてしまっは、あまりにもかわいそうです。また我々生産者にとっても、経費回収に追い付かなくなってしまいます。

ただ、幸いなことに、人のエイズと同様に、感染は体液によるもので、空気感染はしないことです。害虫をきちんと防除し、使う器具をきちんと消毒すれば、伝染は限りなく防げるのです。そう思い従業員一同徹底して努力しています。

ここまで徹底している農家は少ないと思います。それでも、発病してしまったときはごめんなさい。申し訳ありませんが返品交換もクレームも受け付けません。どうぞご理解ください。

我が家の主力品種のうちの1種類は、1972年の開園当時にアメリカから輸入した200株を、こつこつと株分けで増やし続け、現在50,000株以上になっています。これから先もまだまだ主力として、増やし使うつもりです。この品種が2014年全国洋らん品評会でカトレア部門のトップに輝いた作品です。